

法人理念

安心 信頼 幸福

理念の基に…

法人および各事業所は社会資源であるということを実感し常に信頼を第一に考え、安全で安心して、誰もが末永く利用できるものでなければならぬ。

法人は常に利用者にとって、職員にとって、社会においてその具体的な役割を担い事業を遂行していくものとする。

職員は法人の理念を理解し、利用者ならびにそのご家族と信頼関係を築き、社会一般的な価値観に基づき、支援をおこなう。

また、職員自らも自分の将来像を描き、安定した生活を維持するために法人および職員間で協力し合い業務にあたるものとする。

そして職員も利用者も人として、あきらめない・にげない・くじけない・とらわれない、そのココロを大切に活動をしていく。

幸福であるために…。

支援姿勢

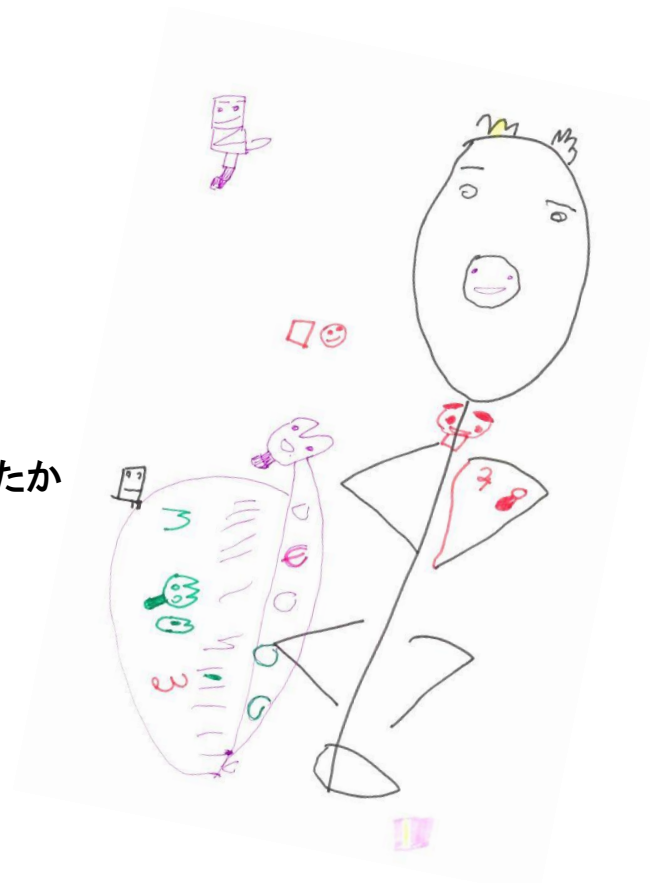
- ①怒らない(声をあげない)
注意しない工夫をしよう
- ②伝える工夫をしよう
- ③ルールにとらわれすぎないようにしよう

支援のふりかえり(自己点検)

- ・(今の支援は)自分には能力があると
感じてもらったか
- ・(支援者と)私は仲間だと感じてもらったか

支援の目標

- ・自立する
- ・社会と調和して暮らせる



2017年度 社会福祉法人クローバー 事業計画（案）

社会福祉法人クローバー 理事長 高橋良壽

はじめに

私たちは日々の支援の場面中で、時おり不安になることがあります。果たして自分の支援はこれで良かったのかと…。

そんな時は操作的定義を作り、自分の支援をふりかえるようにします。

操作的定義とは科学の方法のひとつで、そのものだけでは測ることができないものに対して何か別の物を使って測ることをいいます。

たとえば、『あたたかさ』の概念を測るのに『気温』という形で測ったりするように。操作的定義、何か共通の概念を見つけないと良し悪しがはっきりしない時に便利です。

それでは支援の場面における操作的定義とは、

その直前の自分のかかわり方やかけた言葉で、利用してくださる皆さんや、入居している皆さんが次のように感じたらそれは有効なかかわり、もしそう感じられなければ無効なかかわりということになります。

①自分には能力があると感じた

②支援者と仲間だと感じた

クローバーでは『支援のふりかえり』としてこの2点を意識するように伝えていきます。

私たちはより良い支援をするために常に自己点検をしていく必要があります。その時は操作的定義を思い出し、ふりかえりをします。

ただし、私たちの仲間の中にはその時の自分の気持ちを言葉や態度、表情に表すことが苦手な方もいらっしゃいます。その時はどうするか…自分にあてはめて考えてみる。自分がそのかかわりをしてもらったら、自分に能力があると思えるか、支援者と仲間だと思えるかどうか、そうして自己点検をするようにします。

また、誰にでも、どの場面においても有効な魔法の言葉やかかわり方はありません。日頃からのお付き合いの仕方、つまり文脈で利用者、入居者の皆さんの反応が違ってきます。利用者や入居者の皆さんが職員の話聴いてくれる、職員の指示に従ってくれる。これは当たり前のことではなく、職員に協力・貢献してくれているということです。そのことも忘れず、日々のかかわりを大切し支援していきます。

障害者自立支援法（現：障害者総合支援法）が施行されてから既に10年以上が経過しています。以前の福祉は、『保護』することにより障害者福祉を図るものでした。でも今は、『自立』に向けた支援に変わりました。しかし、残念ながら未だ『保護』という管理がなされていることも現状です。職員の言葉や支援は常に正しいと思ってしまうことがあります。私たちは、もっともっと自己点検する必要があるようです。

実施予定事業

◎取り組み

・第三者委員の強化

定期的に事業所に足を運んでいただき、利用者や入居者の皆さまが、直接お話ができる機会を設ける。

・運営委員会（仮称）の設置

福祉法の改正に伴い、評議員の構成メンバーが変わったこともあり、利用者、入居者の皆さま、今までご協力いただいた地域の方々、ご家族、関係機関のご意見等を頂く場として運営委員会を設置。

参加者の人数、内容等を考慮し、日中活動とGHを別々に開催。開催は事業所の長とする。

・『打合せ』の強化

2016年度、春からみんとの家、れもんの家、移転後からクローバー（深谷町）において、ID（※）の技法を用いて日々の打合せを強化してきた。

職員間のトラブルの多くはお互いの価値観の食い違いによるものが多く、分析すれば非常に些細なことが原因となっている。何が悪い、誰が悪い、そういう問題ではなく、方法論としての打合せを実施。2017年度においては全事業所で実施できるよう試みる。

※ID=Instructional Design 教え方を科学的にとらえコース設計していくこと

①引継ぎ

週に一回、支援姿勢、支援方法、制度等についてワンテーマで情報を書面にて伝える。⇒現状、毎週一回実施しているがふりかえりが難しいため、回数を減らす。

②正の動機づけ（負の動機づけをやめる）

打合せにて、結果に対して負の動機づけ（ダメだし、禁止）をすることがなく、こうしたら良くなるという提案を随時行えるようにする。

③即時のふりかえり（フィードバック）

支援内容、ご家族や日中とのやり取り、事務処理等において、時間を空けることなく即時に、それ良いね、もう少しこうしてもらえる…といったようなふりかえりを行う。

◎事業

- ・始業式・入社式 2017年04月12日（水）午前 戸塚区役所3階多目的ホール
- ・職員総会
- ・全体研修

案：障がい分野だけではなく、高齢、児童等の福祉分野と共同で『支援』の本来の目的等について学ぶ

- ・全体保護者会（年一回）各事業所、各グループにおいてはこの他に2回程度
- ・スプリンクラーの設置（別紙参照）

◎外部機関との定期会議

- ・戸塚区社会福祉協議会 関係
障がい分科会，地域とつながる連絡会，移動情報センター推進委員会
- ・自立支援協議会
地域啓発分科会，地域を創る分科会，リスク対応分科会
通所状況等に関する情報交換会，GH連絡会（事務局担当）

生活介護事業所クローバー【2017年度】事業計画案

(クローバー深谷, Begin)

1. 利用者の状況

①利用開始・退所

深 4月1日付 男性利用者 1名 (保土ヶ谷養護学校新卒)

4月1日付 女性利用者 1名 (本郷特別支援学校新卒)

B 新年度より女性1名利用開始予定 (調整中)

②支援計画の作成予定

深 全員6ヶ月毎に作成 (各自作成時期が異なります)

B 全員6ヶ月毎に作成 (各自作成時期が異なります)

2. 活動の状況

①工賃収入につながるプログラム

深 袋入れ、袋折り、ちらし、メール便、クロネコDM便、ぱど配布、シンオー(株)、製菓

B 製パン、製菓、ビーズ、機織り

②生活プログラム (創作活動, 買物, 調理等)

深 ビーズ、ステンシル、買い物、口腔内ケア、体重測定及び手足の感染症チェック、施設内外清掃の励行

B 絵画、音楽、買い物、公園清掃 (美化活動)

③地域との関わり

深 防犯・高齢者世帯の見守り (ぱど配布やDM便配達で近隣を歩くことで、不審者発見や空き巣被害の抑止力となる。ポストに新聞や郵便物がたまっている、同じ洗濯物が何日も干してあるなどの異変に気づくことができる)

地域の催し物への参加 (夏祭り、地域防災訓練等)

B 絵画作品の展示 (現在、中区寿町総合労働福祉会館図書室に作品を展示中)

フリースペースでのパン、菓子、作品の販売、地域福祉施設との交流

地域の催し物への参加 (バザー等)

④社会貢献的な取組

深 福祉体験の機会の提供 (地域のボランティア、福祉系大学実習生の受け入れ)

災害時の地域の要援護者の一時的な受け入れ

福祉の窓口としての相談業務

- B** 福祉体験の機会の提供（地域のボランティア、福祉系大学実習生の受け入れ）
災害時の地域の要援護者の一時的な受け入れ

⑤行事

- 深** 地域盆踊り出店、宿泊旅行、移転1周年記念
- B** 旅行（1泊）、日帰り外出、パン作業の事業所見学

⑥防災訓練

- 深** 負傷者搬送訓練、新しくなった市民防災センター見学
- B** 毎月第一金曜日に固定していたが、訓練に参加するスタッフの顔ぶれが変わらないため、後期は曜日を変更して実施したい。

3. 会議, 研修

①メンバー会議

- 深** 製菓：出張販売に向けた販売先の選定
受注：現状の活動内容について
創作：ビーズ製品の販売方法、ステンシル作品の活用方法
- B** 昼食メニューの見直し（食べたい物の希望、要望があったため）

②研修

- 深** 車椅子の研修、うつ病と統合失調症の研修、様々な障害特性の研修
- B** メンタルヘルスケア研修、ファシリテーション研修

4. その他

①看護師に相談したいこと

- 深** 年齢別の健康チェックポイント、季節ごとの生活上の配慮点
- B** 高齢化に伴う配慮

②自主的な改善点

- 深** 更衣室の利便性の見直し、プログラムを円滑に進めるための備品の充実。
- B** 建物や設備の補修交換（特にブラインド、ロールカーテン他）

5. まとめ

- 深** 移転して約7か月。各グループの活動も“日常”となり、目標を持った活動へと変化してきました。製菓グループ、創作グループでは新年度より新メニュー、新製品の販売に向け動き始めています。受注グループはクロネコDM便の新年度からの本格導入に向けて、試験配達を始めました。新メニュー、新製品を盆踊りやバザー等で出店販売させて頂くこと、ぱど配

達やクロネコDM便の配達で地域の防犯のお役に立つことなどを目標としています。また新年度を迎えるにあたり、移転前に予定していた通りグループの見直しを行う予定です。各グループで利用者お一人ずつ、意向確認を行います。

- B** 製パンはほぼ毎日数種類のパンをラインアップできるようになり、好評を得ています。また、ビーズ作品もバラエティに富み、今後は外部での販売を視野に入れて考えていきたいと思えます。毎日の生活をゆるやかに楽しめるように創意工夫していきます。

作成：生活介護事業所クローバー（深谷） 施設長 春田恵史加
生活介護事業所クローバー（Begin） 施設長 海老原克憲

地域活動支援センターいとぐるま【2017年度】事業計画 案

1. 利用者の状況

① 利用開始・退所

1名利用開始 利用者12名

② 支援計画の作成予定

全員6ヶ月毎に作成（各自作成時期が異なります）

2. 活動の状況

① 工賃収入につながるプログラム

機織、受注作業（塩封入、保険パンフレット封入）、はがき作り

② 生活プログラム（創作活動、買物、調理等）

私プログラム（利用者希望プログラム）、音楽活動、園芸活動、美化活動、運動、買物

③ 地域との関わり

フリースペースでの作品販売、地域福祉施設との交流

地域の催し物への参加（バザー等）

④ 社会貢献的な取組

福祉体験の機会の提供（地域のボランティア、福祉系大学実習生の受け入れ）

災害時の地域の要援護者の一時的な受け入れ

⑤ 行事

新規利用者歓迎会、福祉バスを利用した日帰りバス外出、1泊旅行

⑥ 防災訓練

防災備蓄品の充実

3. 会議、研修

① メンバー会議

私プログラムに関する、利用者からの希望の聞き取りと利用者からの内容の発表

② 研修

権利擁護研修、医療と連携した研修

4. その他

① 看護師に相談したいこと

体重増加への対応

② 自主的な改善点

機織作業ボランティアを増やし、機織作品の向上。

5. まとめ

2017年度は、2年ぶりに新規利用者の受け入れをいたします。いろいろな人生経験をされてこられた、60代の男性です。いとぐるまで、人生の充実を求めての利用になります。

実習中は、機織作業をやり、織り方をお伝えすると、とても楽しんでマット作りに取り組んでいらっしゃいました。将来すばらしい織り職人になって下さると思います。

いとぐるまは、今年ご成人を迎えた方から60代まで、利用者の年齢層の幅が広く、みなさんがそれぞれの目的をもって、いとぐるまを利用しています。利用者のお一人お一人が、いとぐるまの活動に充実して、生きがいを感じていただける事を、職員は願っています。

作成：地域活動支援センターいとぐるま 施設長 泉 和真

共同生活援助（GH）【2017年度】事業計画案

（みんなの家、れもんの家、みかんの家、いちごの家）

1. 利用者の状況

①利用開始・退所

- ミ 変更なし
- レ 変更なし
- み 変更なし
- い 変更なし

参考

ミ：みんなの家
レ：れもんの家
み：みかんの家
い：いちごの家

②支援計画の作成予定

- ミ 2017年9月、2018年3月
- レ 2017年9月、2018年3月
- み 2017年9月、2018年3月
- い 2017年9月、2018年3月

2. 支援の状況

①日々の支援で気をつけること

- ミ 支援する前に入居者の皆さんの話を聞き、GH生活をどう感じているか？ 不安なことはないか？ などに基づいて支援の方向を考えていく。
- レ 身支度や配下膳など入居者が独力のできることが増えるように意識して支援している。引き続き、就寝前の落ち着いた時間に利用者の話を聞き、不安を解消して生活ができるようにしていく。
- み 自分でできた時の達成感や喜びを感じられるように、先回りして手や口を出さず、入居者の皆さんが自分でできることは見守るようにしていく。
- い 安心して過ごすことができる環境のなかで、利用者の話をとことん聴き、利用者の想いを大切に、幸せな生活を送ることができるよう支援する。

②健康管理（含食事）で気をつけること

- ミ 外出後の手洗い、うがい、毎日の検温、月2回の体重測定を実施して、体調の変化を見落とさないように対応していく。
- レ 外出後の手洗い、うがいを欠かさず行うよう声掛けをしていく。また、毎日の検温、月2回の体重測定を実施して、中性脂肪が基準値を大幅に上回る等健康面で不安のある入居者は見守りを徹底していく。

- み** 体重の増減を気にし、日々の食事の主食やおかずの量を調整している。体重が増えたからといって、全体的に量を減らすのではなく、炭水化物を減らし野菜を増やすなどの工夫をしてきたので、今後も継続していきたい。
- い** 体重測定を月 2 回行っているが、今までは主に職員が増減のチェックをするためという傾向が強く、その結果を基に利用者と話をすることができていませんでした。今年度は、計測した結果を利用者と共有し、利用者と共に“健康”について考えていきたい。

③金銭管理で気をつけること

- ミ** ガイド、通所支援などの月の概算額を算定して、それに基づき金銭を使用していきます。また、利用後は現金計算書の記載もれの有無、残金の確認を必ず利用者と一緒にいきます。
- レ** ガイドなどの月の概算額を算定して、それに基づき金銭を計画的に使用するよう支援していく。引き続き、ガイド利用後の金銭については、入居者と一緒に現金計算書と照合し、その他の入出金時は帳簿に記載し現金との確認を行っていく。
- み** 小遣い帳と実際の小遣い残高にずれがあった場合は、すぐに気付き原因を調べられるよう金銭の出し入れがあった際は、複数の職員でチェックするよう徹底していく。
- い** 入居者の金銭管理については、細心の注意を払い、複数の職員の確認を行い適切に管理する。小遣いについては、1ヶ月の収支状況・外出時の収支状況の確認を入居者と一緒に行い、有意義に使うことができるよう、月の外出予定等を一緒に考えていきたい。

3. 事業，会議，研修

①行事

- ミ** 旅行、夏のお楽しみ会、クリスマス会
- レ** 旅行、夏のお楽しみ会、クリスマス会
- み** 四季を感じられる行事（果物狩りや餅つきなど）、定期的な休日の外出（職員・利用者全員で）運動会
- い** 1泊旅行，クリスマス会，お誕生日のお祝い

②防災訓練

- ミ** 入居者と一緒に炊き出し訓練を行う。
- レ** 入居者と一緒に炊き出し訓練を行う。
- み** 消防署との合同避難訓練
- い** 職員体制が新しくなるため、改めて災害時について話し合いを行い、基本的な訓練から開始していきたい。入居者と共に、地域の防災訓練に参加したい。

③メンバー会議

- ミ** 共同生活を楽しくする工夫
- レ** GH内で共同生活する事の意味について

み 共同生活のルールとマナーについて

「自立」という観点においても、ルールとマナーを身につける事は、必要不可欠なことだと感じました。「洗面所や他の人の部屋はロックして入ってよいか伺ってからドアを開ける」など当たり前の事ですが、守れていない事が多々ありますので、改めてグループホーム内のルールとマナーについて、皆さんと一緒に話し合っていきたい。

い 会議というかたちでの開催が難しい場面もあるため、会議の時間にこだわらず、日頃から入居者の皆さんの想いや意見を聴く機会をつくっていきたい。

④研修

ミ 発達障害に関する研修

レ 脳科学と発達障害に関する研修

み 社会福祉士通信教育

い 入居者支援に関わる内容の研修・栄養学の研修

4. その他

①地域との関わり

ミ 町内会の行事に入居者と一緒に参加する。

レ 近隣の施設等で催す行事へ入居者と一緒に参加する。

み 運動会やラジオ体操など、地域の方達が集まる行事に積極的に参加し、入居者の皆さんの顔を地域の方々に覚えていただく。

い 地域の行事に参加（盆踊り、お祭り、防災訓練）、地域の中の社会資源の活用

②社会貢献的な取組

ミ ホーム周辺の清掃を行う。（ホーム内にGH以外のゴミ収集場がある為）

レ ホーム周辺の清掃を行う。

み 地域行事の準備や片付けのお手伝い。

い ホーム周辺のゴミ拾い。降雪時等の地域の困りごとの際は、地域と協力して取り組みたい。

③自主的な改善点

ミ ホーム内の美化。

レ GH内の物を整理し、不足している物を買って揃える。物品の管理にあたり施錠できる所は行い、適正かつ厳重に管理する。

み 入居者の皆さんの体重の増減を気にし、食事の量を調整しています。また時間がある時に職員と一緒に筋力トレーニングなどを行い、健康に気を付けています。今後も継続して続けていきたいと思っています。

い 過度なルールをつくらず、ルールにこだわらず、ひとり一人の想い・希望に寄り添うように努める。ひとり一人の得意なこと（強み）を生活の中で活かすことができる機会をより多くつくる。

5. まとめ

- ミ 入居者の皆さんのそれぞれの個性、年齢等を尊重して、安全で安心して暮らせるように支援していく。入居者も中年期に入り、成人病等で通院が多くなる事が予想されます。ガイド事業所や病院等の関係機関とも連携を取り対応して行きます。
- レ 入居者それぞれの個性を尊重し、日々の生活が穏やかに暮らせるよう引き続き支援していく。また、中性脂肪の数値が基準値を大幅に上回ったり、皮膚科へ通院する入居者もいるので、成人病等の健康管理には人一倍気遣い、それぞれの入居者が抱える健康問題について、ガイド事業所や病院等の関係機関とも連携を取りながら、速やかに対応できるようにする。
- み 入居者の皆さんも段々と高齢化が進み、健康について考える機会が多くなりました。日々の生活の中では、なかなか体を動かす場面が少ないので、ホームに帰宅した後に職員と一緒に体を動かせる時間を積極的に作ってきました。今後はますます高齢化が進んでいきますので、「健康」というテーマを第一に考え、支援に取り組んでいきたいと思ひます。
- い 職員体制の変化が大きく、入居者のみなさんには落ち着いた日々が続くこと、大変申し訳なく思っております。本当に申し訳ありません。
そんな中でも、明るく楽しく協力しながら日々の生活を送っているいちごの家の入居者のみなさんの生活に触れるたびに、感謝の気持ちでいっぱいになります。いつもありがとうございます。新しい職員体制となりますが、これからもみなさんと話をする時間を大切に、そこで話をしてくださった、『想い・希望』を大切に、“生活”について一緒に考えていきたいと思ひます。明るく楽しく、時には曇りや雨の日もある、そんな当たり前の“毎日”をこれからも一緒に過ごしていきたいと思ひます。

作成：みんとの家 副主任 梅谷博文
れもんの家 松下文彦
みかんの家 主任 加藤 学
いちごの家 サービス管理責任者 川端亜希子

社会福祉法人クローバー 2017年度 レクリエーション活動等 年間計画

	地域活動支援センター	生活介護事業所		共同生活介護事業所(グループホーム)			
	いとぐるま	クローバー深谷	Begin	みんなの家	れもんの家	いちごの家	みかんの家
04月	07日(金)花まつり 12日(水)入社式&始業式	12日(水)入社式&始業式 19日(水)新人歓迎会	05日(水)花まつり(妙法寺) 12日(水)入社式&始業式 26日(水)音楽活動	12日(水)入社式&始業式	12日(水)入社式&始業式	12日(水)入社式&始業式	12日(水)入社式&始業式
05月	10日(水)音楽活動 22日(月)施設見学 26日(金)施設見学	25日(木)防災センター見学(A) 29日(月)防災センター見学(C)	24日(水)音楽活動	8日(月)菖蒲湯	8日(月)菖蒲湯 誕生日会	05日(金)菖蒲湯 18日(木)お誕生日会	18日(木)~19日(金)旅行
06月	23日(金)日帰り外出	14日(水)ビーズ見学(C) 21日(水)防災センター見学(B)	06日(火)バスハイク(延期) 28日(水)音楽活動				
07月	12日(水)音楽活動 28日(金)喫茶外出	21日(水)一周年記念行事 21日(水)、22日(木) 深谷盆踊り参加	26日(水)音楽活動			19日(水)お誕生日会	
08月	09日(水)音楽活動 25日(金)喫茶外出	05日(土)富士見が丘夏祭り 23日(水)日帰り外出(B) 26日(土)東山夏祭り		16日(水)夏のイベント	16日(水)夏のイベント	11日(金)夏のイベント 17日(木)お誕生日会	10日(木)夏のイベント
9月	13日(水)音楽活動 14日(木)~15日(金)旅行	14日(木)~15日(金)旅行(C) 28日(木)芋掘り(A)	14日(木)~15日(金)旅行 27日(水)音楽活動				
10月	21日(土)戸塚教会バザー 27日(金)喫茶外出	04日(水)芋掘り(C) 14日(木)~15日(金)旅行(A)	25日(水)音楽活動	15日(日)~16日(月)旅行	15日(日)~16日(月)旅行	15日(日)~16日(月)旅行 19日(木)お誕生日会	
11月	08日(水)音楽活動 16日(木)施設見学	06日(月)~07日(火)旅行(B)	22日(水)音楽活動				
12月	07日(木)障害者の集い 13日(水)クリスマス会	20日(水)クリスマス会 22日(金)イルミネーション外出(A)	13日(水)クリスマス会	24日(日)クリスマス会	24日(日)クリスマス会	12日(火)お誕生日会 22日(金)ゆず湯 22日(金)お誕生日会 23日(土)クリスマス会	22日(金)クリスマス会
01月	05日(金)新年会	04日(木)初詣(A) 05日(金)初詣(C) 09日(火)初詣(B)	05日(水)新年会 24日(水)音楽活動				
02月	13日(水)音楽活動 23日(金)喫茶外出	01日(木)節分		03日(土)節分		03日(土)節分	
03月	14日(水)音楽活動 16日(金)日帰り外出	14日(水)忘年会	09日(金)日帰り外出 28日(水)音楽活動			01日(木)ひな祭りのお祝い	

社会福祉法人クローバー 2017年度 防災訓練等 年間計画

	地域活動支援センター	生活介護事業所		共同生活介護事業所(グループホーム)			
	いとぐるま	クローバー深谷	Begin	みんとの家	れもんの家	いちごの家	みかんの家
地域 防災 拠点	上矢部小学校	深谷小学校	上矢部小学校	鳥が丘小学校		中和田南小学校	
04月	防災用品確認	防災用品の確認 (各グループ)	防災用品確認	防災用品確認	防災用品確認	防災用品確認	防災用品確認
05月	地域防災拠点への 避難訓練	横浜市市民防災センター見学 (各グループ)	地域防災拠点への 避難訓練	火災を想定した訓練 消火器訓練 消火器点検	火災を想定した訓練 消火器訓練 消火器点検	避難経路確認 消火器訓練、消火器点検	避難経路確認 消火器訓練、消火器点検
06月	2階から1階に降りる訓練 傷病人の搬送	火災を想定した訓練	2階から1階に降りる訓練 傷病人の搬送	炊き出し訓練	炊き出し訓練	火災を想定した訓練 消火器訓練、消火器点検	火災を想定した訓練 消火器訓練、消火器点検
07月	地震を想定した避難訓練	消防署員による消火訓練 消火器点検	作業グループ別避難訓練	地震を想定した避難訓練 ヘルメットの着脱訓練	地震を想定した避難訓練 ヘルメットの着脱訓練	地震を想定した避難訓練 ヘルメットの着脱訓練	地震を想定した避難訓練 ヘルメットの着脱訓練
08月	消火器訓練、消火器点検	転倒防止器具の設置状況・状 態確認 各グループで分担して実施	消火器訓練、消火器点検	転倒防止器具の点検 消火器点検	転倒防止器具の点検 消火器点検	転倒防止器具の点検 消火器点検	転倒防止器具の点検 消火器点検
9月	防災用品確認	防災用品の確認 (各グループ)	防災用品確認	地域防災拠点への 避難訓練	地域防災拠点への 避難訓練	地域防災拠点への 避難訓練	地域防災拠点への 避難訓練
10月	合同防災会議	合同防災会議	合同防災会議	合同防災会議	合同防災会議	合同防災会議	合同防災会議
11月	地域防災拠点への 避難訓練	地震を想定した作業別避難訓練 一時避難場所への避難 (各グループ)	地域防災拠点への 避難訓練	みんと・れもん合同消火訓練 (消防署) 避難経路確認 消火器訓練	みんと・れもん合同消火訓練 (消防署) 避難経路確認 消火器訓練	いちご・みかん合同消火訓練 避難経路確認 消火器訓練	いちご・みかん合同消火訓練 避難経路確認 消火器訓練
12月	2階から1階に降りる訓練 傷病人の搬送	地域防災拠点の確認	2階から1階に降りる訓練 傷病人の搬送	火災を想定した訓練 消火器訓練、消火器点検	火災を想定した訓練 消火器訓練、消火器点検	火災を想定した訓練 消火器訓練、消火器点検	火災を想定した訓練 消火器訓練、消火器点検
01月	地震を想定した避難訓練	火災を想定した訓練 消火器訓練、消火器点検	作業グループ別避難訓練	防災用品確認	防災用品確認	防災用品確認	防災用品確認
02月	法人全体防災訓練	法人全体防災訓練	法人全体防災訓練	法人全体防災訓練	法人全体防災訓練	法人全体防災訓練	法人全体防災訓練
03月	消火器訓練、消火器点検 2017年度のまとめ 2018年度の計画作成	2017年度のまとめ 2018年度の計画作成	消火器訓練、消火器点検 2017年度のまとめ 2018年度の計画作成	2017年度のまとめ 2018年度の計画作成	2017年度のまとめ 2018年度の計画作成	2017年度のまとめ 2018年度の計画作成	2017年度のまとめ 2018年度の計画作成

防災用品は災害時の非常用持ち出し品全般(備蓄用の食糧、生活用品等)をいう。